

令和4年度移動教育委員会 意見交換 発言要旨
(熱海高等学校)

開催日時：令和5年1月27日(金)14時25分～15時15分

場 所：熱海高等学校

参加者：熱海高等学校教職員、静岡県教育委員 など

1 校長挨拶(熱海高等学校鈴木校長)

- 沿革 昭和16年に熱海市立熱海高等女学校として創立。昭和23年、男女共学の県立熱海高等学校となった。昭和42年に熱海市下多賀に移転し、現在に至る。創立81年目を迎えた歴史と伝統のある、熱海市内唯一の高校として地域とともに歩んでいる学校である。学校からの景観は大変素晴らしく恵まれた自然環境が自慢。
- 懸案事項の解消 在生徒のほとんどがJR伊東線・伊豆多賀駅から徒歩で通学する。以前は一度海岸近くまで降り、さらに本校へ急坂を登るといふ、生徒にとっては非常に過酷な通学路が懸案事項であった。平成29年に長年の念願が叶い、ほぼ平坦な素晴らしい眺望の新通学路を整備されたことによって、伊豆多賀駅から10分～15分もあれば本校に来られるということで、大変便利になった。
- 生徒数 本年度で定員が80名2クラス×3学年という形が完成。実際は、定員充足には遠く、全校で160名弱と大変小規模な学校であり、生徒募集が大変な課題。その分、生徒同士、生徒と教員の関係は非常に密接で、学校としてのまとまりがあり、機動力があることが特色。
- 特色ある指導 多様な生徒に対応し、一人ひとりを大切に丁寧な指導。学習面においては、本校独自の学校設定科目「キャリアアップ」を設け、小・中学校の学習内容を振り返り、自分のペースで基礎基本からの学び直しを実施。人間関係の構築が得意ではない生徒も一定数いるが、ソーシャルスキルトレーニングを行うことで、集団生活により適応できるよう支援。
- 進路状況 令和3年度卒業生は、第1希望の進路先への合格率が90%以上。また現在の3年生は更に合格率が上がり98%、就職に限っては100%という素晴らしい結果を上げることができた。
- 部活動 県内で唯一となったヨット部は本年度全国高校総体出場、国体では6位入賞と活躍。陸上部も女子ハンマー投げで東海大会出場と活躍。エイサー部など特色ある部活動もあり、地域での演舞披露を通して地域貢献。

2 地域連携について(熱海高等学校川村副校長)

5つのカテゴリーに分けて取り組みを紹介。

- (1) 総合的な探究の時間 「熱高ラボ」と称し、地域の課題発見、調査、解決策の策定

等を、地元企業や自治体の協力を得て指導助言をもらいながら実施。

- (2) 普通科改革の取組 2年生から、生徒の希望により「観光ビジネスコース、福祉コース、進学コース」の3つのコースに分かれる。観光ビジネスコース、福祉コースでは、2年生の11月、3年生の6月に1週間程度、熱海市や伊東市といった地元のホテル、高齢者介護施設などの協力にて実習。

観光ビジネスコースはホテルでの実習を進化させ、地元企業と連携し、高校生ホテル、伊豆半島のツアーガイド実習、商品開発などに取り組む。また、「日本のレモンの発祥の地が熱海である」という説から、レモンの苗木を植樹し、熱海にレモンをたくさん植えるという取組を行っている。

福祉コースでは、健康食メニューについての知識と技術の習得のため、オンラインハイスクール事業から経費を出し地元のレストランからシェフを呼んで授業を実施している。

- (3) 生徒会によるSDGsなどの取組 地域にあるコンビニエンスストアでの取組を講演で紹介。県内大学から講師を招き、生徒会執行部あるいはボランティア部の生徒へSDGsのワークショップを実施。自己肯定感や自己有用感の向上を目指す足がかりとしている。

- (4) 部活動における取組 パソコン部では、熱海市と連携して、高校生による高齢者向けのスマホ教室を開催。ボランティア部では、学童クラブ、高齢者福祉施設、障害者施設の訪問、地域の清掃活動を実施。また、熱海市内のボランティア団体と協力し落書き消しの活動を実施している。県内で唯一の部活動である沖縄舞踊のエイサー部は、地域の介護施設への慰問公演や、地域のお祭りやイベントに参加し演舞を披露することで、地域を盛り上げる取組を実施している。

- (5) 学校設定科目「キャリアマネジメント」に向けた取組 令和6年度開始予定である学校設定科目。6つの領域「国際交流・海洋、海の事・食・イノベーション・障害スポーツ・メディア」について地域の人力を活用して1年から3年まで学年をまたぎ、教員の得意分野に当てはめ教科横断的に担当を配置していく。

3 意見交換

教育委員 キャリアアップコースあるいは観光ビジネスコースなど、熱海というロケーションの中で、観光に関係のあるご家庭の方が多い地域の特性を掴み、内容を深めていくことは素晴らしいこと。今後、ますます熱海の地域性を生かし、熱海高校の特徴を発揮できるような教育をお願いしたい。

教育委員 教員数が決して多くない中で、地域連携が活発に行われている。学校と地域をつなぐ地域連携コーディネーターとの連携方法について、コーディネーターが繋いでいるのか、企業から直接学校へ連絡をとり、内容を詰めているのか。また、今地域連携につい

て中心になって取り組んでいる先生方が異動になった際の引継ぎについて教えていただきたい。

熱海高校 本校は教員が少なく、一人ひとりが様々な役割を担っている。教務主任と商業課主任、福祉課主任と学級担任を兼任しているなど。教科担任が1人しかいない福祉科においては週当たり20時間の授業を担っている。あわせて部活動の顧問も担っている。地域連携については、NPOにコーディネーターとして入ってもらっているが、担当教員が直接企業と連絡をとることが多い。全てのコーディネートを担当する人材が職員室に1人いると助かる。

引継ぎについては、校内でも引継ぎ方法を模索中。ただ、現在の担当教員が異動した場合、現状と同じように活動をすることは難しいと思う。特に勤務年数が長い教員は、地域との長年のやり取りの中でネットワークが構築できている。担当教員への負担軽減や異動等を考慮して、組織で企業や地域とのつながりを構築しようと動こうとしているものの、中堅職員の次は経験年数の少ない若手となり人手不足。引き継げる教員がおらず、課題となっている。

教育委員 熱海という土地柄、自営でいろいろな仕事をしている保護者が多いと思われる。保護者と連携していけるような流れが作れると好循環になっていくのではないかと思うがどうか？

教育委員 高校と地域と企業とだけではなくて、中高連携について、何か取り組んでいることがあれば教えていただきたい。

熱海高校 初島の中学校との連携を企画中である。本校から初島が見えるというのも理由の1つではあるが、直接行ったことがある生徒が少ない。1年生の研修として、校歌の練習を初島の中学校を借りて行き、最後一緒に校歌を歌うなどの交流を考えている。また、毎年秋に実施している、地元の清掃活動「ウルトラ大掃除」では、高校生が保育園や幼稚園を訪問し掃除。その他にも小学校、中学校を訪問し、レモンの植樹も5年ほど前から実施し、レモンの収穫後は商品開発も行っている。

教育委員 部活動や観光コースなど特色の多い学校であるため、馴染みのある状態から生徒を引き込んでいくと面白いのではないか。

教育委員 2か月に1度、中学校訪問を行っているが、目的を教えていただきたい。

熱海高校 高校生が探究学習で学んだことを中学生に向けて発表し、高校生の姿を知って

もらうことが狙い。「中学生と高校生で連携して何かを作り上げる」という話も出ているが、コロナ禍で具体的な話は進んでいない。普段から中学校と交流できれば、熱海高校を身近に感じてもらえると思う。

教育委員 地域連携コーディネーターの役割をしっかりと位置づけていくのが大事。それを、熱海高校の応援団を校内ではなく地域に作り、地域の方々、特に地元の金融機関のOBは地域の企業に詳しく、自分の住む地域のために働こうという方も結構いるので、声を掛けながら、参加していく仕組みを作るのはどうだろうか。